

第18回防災まちづくり大賞表彰式

防災課

平成26年2月6日（木）、総務省講堂において第18回防災まちづくり大賞表彰式が行われました。

防災まちづくり大賞は、平成7年に発生した阪神・淡路大震災を契機として、防災に関する優れた取組を表彰し、他の地域に広く紹介することで災害に強いまちづくりの推進に資することを目的に、平成8年度から実施しています。

本年度は全部で100の事例が全国各地から寄せられ、学識経験者、関係団体及び関係行政機関の職員等で構成される選定委員会において、他の地域の参考となる優れた取組15事例が選定されました。

（受賞事例の内訳は表のとおり）

大規模な災害や火災などによる被害を軽減するためには、地域の防災力を強化することが必要であり、とりわけ地域の方々の「自分たちの地域は自分たちで守る」という自助・共助の精神に支えられた自主的な防火・防災活動を推進していただくことが重要です。昨年の臨時国会においても、「消防団を中核とした地域防災力の充実強化に関する法律」が成立し、住民、自主防災組織、消防団、地方公共団体、国等の多様な主体が、適切に役割分担をしながら相互に連携協力して取り組むことの重要

性が示されたところであり、受賞団体の皆様には、今回の受賞を機に、より一層活動を充実・発展させていただき、今後も地域防災力の強化に御尽力いただけることを期待しています。

表：受賞事例一覧

応募件数		100
表彰名	総務大臣賞	6
	消防庁長官賞	4
	日本防火・防災協会会長賞	4
	選定委員特別賞	1
受賞事例総数		15

総務大臣賞受賞事例の紹介

団体名：本大久保ホームタウン自治会自主防災会

事例名：IT技術を活用した実践的自主防災活動

所在地：千葉県習志野市

概要：本大久保ホームタウン自治会自主防災会では、平成20年に地域住民自身による自助・共助活動の具現化と、より実践的な活動を目指し、自治会役員とは別立ての公募による専任制自主防災会に改組した。改組にあたっては、専任の防災委員に加え、緊急時に出勤する協力委員、さらには自治会役員・班長も含めて統制できるような地域ブロック制を導入。また、簡易無線機や携帯電話・スマートフォンの活用、災害発生時の防災センターの設置などIT技術の活用と体制を整備。情報収集と指示・発信ができる体制の構築を目指し、ITツール利用のための講習会や訓練などにも積極的に取り組んでいる。

団体名：新小岩北地区連合町会、新小岩北地区ゼロメートル市街地協議会

事例名：新小岩ゼロメートル市街地における大規模水害対策への取組

所在地：東京都葛飾区

概要：葛飾区新小岩北地区は、地盤沈下による「広域ゼロメートル市街地」に位置している。大規模水害が発生した場合は、甚大な被害が生じることが予想されることから、新小岩北地区連合町会が主体となってNPO法人、大学、専門家等と連携して大規模水害のリスクに備える取組を実施。平成23年には「葛飾区新小岩北地区ゼロメートル市街地協議会」を結成し、大規模災害に地域で備えるためのシンポジウムを開催。地区内の防災意



主催者挨拶をする関口昌一総務副大臣



表彰楯授与の様子

識を高めるとともに、全国に向けて自らの取組を広く発信している。また、東京大学等に働きかけGPSと連動した水害時の水位や地震時の危険度等の防災情報が簡単に分かるスマートフォン向け防災学習用アプリの葛飾区版を開発し、「天サイ！まなぶくん」を使ったまちづくりイベントも同時に開催している。大規模災害を想定した防災訓練は、東京消防庁本田消防署、葛飾区の全面協力により地元消防団と町会・市民消防隊が連携して実践的で組織的な自助・公助・共助体制の確立を図り、地域の防災行動力のさらなる向上に努めている。

団体名：中越大震災ネットワークおぢや

事例名：会員相互による災害対応のノウハウと教訓の共有化と被災地支援活動

所在地：新潟県小千谷市

概要：中越大震災ネットワークおぢやは、平成17年10月、災害時における自治体の災害対応の教訓の共有化を促進するとともに、災害発生時における市町村職員の災害対応業務支援のための情報の提供と経験職員派遣の調整を行うことを目的に設立された。阪神淡路大震災以降、大規模な災害による被災経験を持つ自治体と、被災経験のないが応援活動等を通じて災害対応のノウハウを学ぶ意思のある自治体を会員とし、会員自治体が被災した場合には即座に応援活動を開始する。しかしながら、あくまでインフォーマルな組織であり、強制的に応援をする義務はなく、自治体の事情に合わせ緩やかなきずなで広域応援活動を行っている。

団体名：豊橋障害者(児)団体連合協議会

事例名：さくらピア避難所体験～障害者の防災を考える取組～

所在地：愛知県豊橋市

概要：豊橋障害者(児)団体連合協議会は、平成21年度より、豊橋市から「豊橋市障害者福祉会館(以下、「さくらピア」という。)」の指定管理を受託している。「さくらピア」は障害者団体を中心に年間50,000人以上が利用する公共施設であり、福祉避難所に指定されている。しかし、避難所としての具体的内容が不十分であった。そこで、障害者自らが避難所を想定して実際に一夜を過ごす宿泊体験をはじめ、意見交換会、バッククッキング、防災クイズ、スタンプラリー、被災者体験談など、工夫を凝らした内容で避難所体験を毎年実施した。さらに、この4年間の活動を冊子にまとめ、市民・関係者に配布

して防災意識の高揚・障害者福祉の啓発を促した。

団体名：高知市立潮江中学校(潮江中学校防災プロジェクトチーム)

事例名：中学生からのメッセージ！～防災活動で地域貢献～

所在地：高知県高知市

概要：高知市立潮江中学校(潮江中学校防災プロジェクトチーム)がある潮江地区は、地域のほとんどが海拔1m未満であり、昭和21年に発生した昭和南海地震の際には地盤沈下により長い間浸水した。今後発生が想定される南海トラフ地震の際にも地盤沈降による長期浸水が懸念されていることから、学校を中心として地域全体の防災意識を高めるべく、平成23年度から本格的な防災活動をスタートさせた。全学年で地震や津波についての学習を進める「防災プロジェクトチーム」を結成、生徒が中心となって南海トラフ地震啓発ポスター「地震に注意!!」を作成し、校区内の保育園、幼稚園、小学校に配布した。また、「防災プロジェクトチーム」を中心とした出前講座や、全校生徒により校区の高齢者を支援しながら学校近くの山等に逃げる避難訓練を実施している。

団体名：ムササビ少年消防クラブ

事例名：火災期における「子供達の夜回り」「高齢者とのふれあいの輪、火の用心の輪」

所在地：大分県佐伯市

概要：ムササビ少年消防クラブは、昭和60年に園児から小学校6年生に至る地域(向島)の子供達で結成された。地域に貢献できる行事として「夜回り活動」を実施している。子供達は3月末までの5ヶ月間、寒風の中、毎週1回自分の住んでいる地区を元気よく拍子木を鳴らし、火災予防を唱えている。この成果もありクラブ発足から現在まで火災は発生していない。こうした取組から、園児から小学校6年生までの縦のつながりができ、青少年健全育成に役立つとともに、地域の方々とふれあいを持つ機会が多くなり、「地域から愛される」存在となっている。また、結成以来28年以上継続しているため、結成当初のクラブ員が大人になり、自分の子供にも火災予防の重要性を伝授している。

問い合わせ先

消防庁国民保護・防災部防災課 地域防災係 松澤、中村
TEL: 03-5253-7525